

平成28年度 北海道真駒内養護学校 学校評価

1 今年度の学校評価の方針

今年度は、次に挙げる方針のもと、取り組んできました。

①教職員と保護者評価の項目は、経営の重点により三つのカテゴリーに分けて設定しました。

②両者は同じ質問項目としました。

③年度末反省の結果も、学校評価と関連させることとし、経営の重点に関連する各部等の目標に沿って、年度末に達成状況を自己評価しました。

④日頃、本校にかかわっている外部の方（福祉事業所、清掃の方、ボイラーマン等）に、学校への印象やよい点、悪い点、人権感覚など、率直なご意見をお聞きしました。対象は、ランダムに個人を対象とし、事業所等を代表するご意見ではありません。

⑤学校評価案を学校評議員会で評議いただき、最終的に学校評価として完成させます。

※⑥重点とは別に、各部、分掌等の今年度の『売り』を提示し、教職員全員に評価をしてもらう取り組みをしました。

※⑦学校教育で身につけたい力をアンケートで集約し、学校教育目標の改訂に向けた基礎的な資料としました。

※印は、学校評価には直接的に含まない項目ですが、関連しています。

2 基本情報

(1) 回答率 ～ 教職員評価 100%、保護者評価 72%
外部の方からの評価 28名

(2) 分析の方法 ～ ・各設問のポイントの平均値を出し、教職員と保護者の比較をしました。
・経営の重点ごとに、特徴的な項目や全体的傾向などを捉えました。
・それぞれについて、評価と課題をできるだけ具体的にまとめました。
・学校全体としての今年度の取り組みの評価をし、今後の課題を整理しました。
・学校評価に関連したアンケートについて、整理しました。
・自由記述については、いただいた意見をいくつかに分類し、学校としての回答をしました。

3 全体的傾向

- ・保護者評価に比べ、教職員の自己評価の低い傾向がみられました。
- ・4点満点で、平均が3.0未満については低めの評価と捉えました。
- ・3ポイント未満は、教職員評価で7設問、保護者評価ではありませんでした。
- ・「1」と評価した設問は、教職員は13設問(延べ26名)、保護者は3設問(延べ4名)でした。特に、直接的に教育に関連する設問での「1」は、少数とはいえ大きなことと受け止めます。
- ・地域に関連する項目では、「？」への回答が突出して多くありました。教職員も保護者も同様の傾向があり、『評価できない』という回答の多さは大きな課題となりました。

教職員評価		保護者評価	
全体平均	3.0	全体平均	3.4
各部、分掌ごとの評価		3.1	

4 重点目標に沿った評価 教職員・保護者・(一部)各部の売り等も交え・各部の重点への評価

(1) 教職員が一丸となるために

教職員平均	3.0	(全8設問の平均)
学部・分掌ごとの評価平均	3.2	
保護者平均	3.3	

- ・この項目では、学校評価が生きるシステムの再構築、職員間の意思疎通を図る機会の設定、学校教育目標の改訂に着手、教育課程の整備、教育課程の適切な編成、実施という大きな要素があります。
- ・今年度は、教育の充実に向かって教職員が一丸となることを評価しています。
- ・この項目で大きな意味を持つ項目として、教育活動そのものへの直接的評価と言えるいくつかの設問についての回答を記載します。

No	設 問	教職員	保護者
2	教育の系統性	2. 6	2. 8
3	子ども理解、方針の共有	2. 8	3. 4
4	指導力・技能の向上	2. 9	3. 5
8	分かる授業の実践	2. 9	3. 2

- ・保護者評価の方が高いポイントとなっていますが、これらの項目は教員である以上、『4点満点』であるべき項目であり、教職員評価が軒並み2点台ということを反省する必要があります。(参考、上記4項目で『4』をつけた教職員の割合10%、保護者36%)
その要因を探る上で本校の課題となるべき事項を、教職員の記述を参考に挙げると、次のようになります。

- 若手教員育成への課題
- 教材作成等授業準備「の時間の確保に課題
- 担任等、教職員の業務過多の状態に課題
- 教職員間で連携、情報交流できる関係性に課題

これらの課題については、次年度に向けて解決を図っていきます。

- ・寄宿舎においては、子ども理解や方針の共有が3. 2、分かる授業の実践については3. 6ポイントと、教職員と比べ高い数値が出ていました。保護者とは似たような数値でもあり、寄宿舎教育を実践する上でのポイントとして高評価になったと分析しました。
- ・学校と寄宿舎の情報の共有に努め、入舎検討などの課題に対し、共同で取組むことができました。日常の連携を、舎監等を活用しながら密にしようとする姿勢がみられました。

評 価 4:達成できた 3:まあまあ達成 2:やや達成できず 1:全く達成できず	3	・取組みに対する直接的な設問としなかったため、評価結果が読み取りにくい面がありました。 ・教職員評価に比べ、保護者評価の方が総じて高いポイントとなっています。教職員は、より自信を持って日々の指導に当たることができるよう、自身の指導力の向上並びに若手教員の育成への視点をより持つべきだと捉えています。 ・教育目標については、後述します。
<課題解決の方向性> ■担任等が、児童生徒の指導・授業にしっかり向き合える環境を整えていきます。具体的には、子どもの指導の充実のための分掌業務の再編を行います。 ■初任者研修のあり方を見直し、若手教職員の育成を図ります。 ■会議等の効率化を進め、子どもや授業の話ができる時間を確保します。 ■小中高の系統性を図るため、異なる学部間の授業や指導場面の交流を図ります。 ■教職員の協働性を図るため、自由に学校課題を話し合う場を設定します。		

<補足>

- ・学校評価とは別に、『各部、分掌等の「今年の売り」に対し、みんなで取組みの様子を見て評価してあげましょう』という趣旨で、各部等への売りに対する評価に取組みました。
- ・『?』の評価が極めて多くありました。自分の所属以外のことは、意外と分かっていなく、大きく関心を持つまでも至らない現状があったことを把握できました。
- ・同僚性、協働性の向上を課題とする上で、顕著な例として押さえています。
- ・特に、分掌業務においては、一分掌の仕事が全教職員に関連しているとも言え、少なからず危機感を感じています。
- ・ポイントとしては、どの部、分掌とも3. 0程度となっており、『売り』に対しては高めの評価となり、「頑張ったこと」が評価されているとも言えます。

各部等の売りに対する『?』の割合	～ 4 5 %	* (参考) 教職員評価の『?』の割合
分掌の売りに対する『?』の割合	～ 3 3 %	

(2) 保護者が安心するために

教職員平均	3. 1	(全10設問の平均)
学部・分掌ごとの評価平均	3. 3	
保護者平均	3. 4	

- ・この項目に関しては、教育内容への「安心」、教職員の対応に対する「安心」という大き

な2点の要素があります。

- ・複数の要素が重なり、明確に全10項目を二つに分けることはできませんが、大まかに分けて記載します。

【教育内容への安心】			
	設 問	教職員	保護者
12	支援計の活用、役割分担	3. 0	3. 1
13	健康の管理	3. 1	3. 6
14	安心・安全な学校	3. 1	3. 6
15	給食の安全	3. 0	3. 5
16	通わせたいと思える学校	3. 2	3. 3
17	保護者と教員の交流	3. 0	3. 3

【教職員の対応に対する安心】			
	設 問	教職員	保護者
9	保護者と学校の話し合い	3. 0	3. 3
10	学習成果等の情報提供	3. 1	3. 4
11	進路情報の提供	3. 0	3. 1
18	人権の尊重	3. 3	3. 6

- ・この項目においても保護者評価のポイントが高くなっています。
- ・保護者から高いポイントをいただいた中でも、支援計画の活用に関しては3. 1とやや低めとなっています。教職員も3. 0となっており、活用の充実を図る事で有効なツールとなることの意識を深め、伝え、実践する必要があります。
- ・進路情報の提供については、年代ごとに関心の高さに違いが見られました。
- ・安心、安全な学校では、保護者から3. 6をいただいています。通わせたいと思える学校では3. 3ポイントとなっています。自由記述にもありましたが、「介助面や日常生活面では大変満足しているが、学習面ではどうなんだろうか？」というご意見に数値が反映されていると捉えます。
- ・給食の安全については、教職員は3. 0、保護者は3. 5となりました。今年度、摂食指導に係る自立活動教諭が着任し、今まで気づかなかった課題に、本校の教職員が気づくことができた一年となったことが数値に反映されています。
- ・また、今年度は給食への異物混入の多さが目立ちました。幸い大事に至るケースはありませんでしたが、その都度立てた対応策や配慮事項が、反映されていない実態となり、児童生徒及び保護者への不安を大きくさせてしまいました。
- ・人権の尊重では、総じて高ポイントですが、『2』の評価が教職員に9名、保護者に3名おりました。体罰等は報告されていませんが、この設問で『2』の評価が1名でもいる以上、児童生徒の人権に配慮したかかわり方について、日常の取り組みから見直す必要があります。
- ・寄宿舎においては、通わせたい学校かの設問が3. 6、人権の尊重では3. 5ポイントでした。教育の場であり生活の場でもある寄宿舎の特色が出た数値でした。
- ・摂食や健康に関する研修を寄宿舎でも開催したが、夜間における緊急時の安全の確保など、人手の課題もあり、今後の検討事項です。

課題を整理すると、次の点が挙げられます。

- 支援計画の活用と保護者との情報共有
- 介助面の充実と学習面の充実の両立
- 摂食、異物混入の事故防止を含めた、食の安全への取り組み
- 教職員の人権意識の向上と実践

これらの課題については、次年度に向けて解決を図っていきます。

評 価		
4:達成できた	3	・保護者に比べ、教職員の自己評価の低さは、(1)の重点と同様、自身の指導力の向上に課題があると捉えます。 ・例えば保護者との話し合いの『4』の評価が教職員では22名/130名中、保護者が36名/92名中でした。同じ話し合いをしても『4』と捉えるか捉えないかの意識の違いは大きいです。教職員は、現状に満足せず、子どもの成長のために、より深い連携を求めている、保護者にも、もっと連携を深めることで子どもにプラスになることを訴えたいという意味を持っているという分析をしました。
3:まあまあ達成		
2:やや達成できず		
1:全く達成できず		
<課題解決の方向性> ■個別の教育支援計画の活用を充実させることにより、教育のねらいがより明確になります。教職員の理解の深め、有効なツールとして活用できるよう取り組みます。 ■各部の特色を活かしながら、個のニーズに応えた教育を実践すべく、授業づくりや公開授業、外部の講師を招いての研修等を実施し、指導力の向上を図ります。 ■摂食については、専門的知識に立った助言を受けることにより、より安全な取り組みとな		

るよう取組みます。異物混入等の事故については、厨房内の動線の確認等を行い、管理の徹底を図ります。 ■児童生徒の事故等に関しては、『事故調査チーム(仮)』をケースごとに組織し、再発防止策を学校全体で考えていきます。 ■小学部から高等部まで、幅広い年代の児童生徒が在籍していることを意識し、人権と人格を尊重したかかわり方、社会へ巣立った後も通用するかかわり方に留意します。

(3) 地域・関係者から頼りにされるために

教職員平均	2. 8	(全4設問の平均)
学部・分掌ごとの評価平均	2. 9	
保護者平均	2. 9	

- ・この項目では、教育活動の発進力、外部から褒められる機会、キャリア教育の視点を持った社会参加の取組が大きな要素です。
- ・特筆すべきは、教職員・保護者とも『?』の回答の多さでした。

	設 問	『?』の割合	
		教職員	保護者
19	学校の取組、実績の地域への発信	4 %	5 %
20	地域資源を活用した授業	2 8 %	3 6 %
21	地域からの理解	3 2 %	4 5 %
22	地域への貢献	3 7 %	4 7 %

- ・『?』への記入の多さについては、保護者においては「判断できないほど情報が不足していた」と捉えるべきであり、教職員については「強い関心を持つことがなかった」と捉えられます。
- ・地域学習の積極的取組み、ユニセフ、ウェルチエアーバスケット選手の招聘、スーパーでの作業展の開催、街へチャレンジ、「わはも」の方との協力による音楽の授業、読み聞かせの SKY、琴演奏のボランティアなど、少なからず地域との接点を活かした授業や活動はなされています。
- (3)の分析として、各取組みがキャリア教育のねらいと結びついていない、あるいは教育課程の中に位置づいていない(位置づけが弱い)ということが考えられます。
- ・明確な根拠のない取組みは、適切な評価もされず、教育活動としての位置づけも曖昧なままとなってしまいます。
- ・今年度、学校の歩道際のフェンスに、高等部で育てた鉢植えの花を飾りました。その花を見て「きれいだね」と言ってくれたお年寄りがいたそうです。定期的に水やりをし、枯らさないように育て、地域の方に「きれいだな」と思ってもらえる、それを生徒たちに伝えることができることが、社会貢献活動の一つと言えるのではないかと捉えています。
- ・ホームページの管理をしている分掌の評価で、この項目が「1. 5」ポイントと低評価でした。この辺の充実した取組みが次年度の改善点です。
- ・寄宿舎における外出を伴う活動では、万が一の際の保険加入が課題となっています。地域での活動の保障と、危険リスクの回避という点について、課題解決が必要です。

課題を整理すると、次の点が挙げられます。

- 学校の教育活動の積極的な発信
- キャリア教育の視点を持った、根拠のある学習の計画と実践
- 地域への貢献への意識

これらの課題については、次年度に向けて解決を図っていきます。

評 価 4:達成できた 3:まあまあ達成 2:やや達成できず 1:全く達成できず	2	・より具体的に聞き取れるような、設問の工夫が必要です。 ・ホームページや射雲等での情報公開はしていますが、記事の内容、更新の時期の遅れなどに課題がありました。 ・教職員の、社会資源の活用や地域への貢献に対し、キャリア教育の視点からも重要かつ有効な学習活動であるという意識が弱かったです。教育課程上の位置づけをはっきりさせることで、新たな取組みへの発展を検討します。
<課題解決の方向性> ■ホームページや射雲の記事の内容を充実します。取組みの報告だけではなく、児童生徒にどのような効果があったのか、地域に対して何を発信した(したい)のか等を、伝える		

ようにします。

- 将来の社会生活、地域生活を見据え、体験的で実践的な学習に取り組めます。また、従来の活動(学習)の意味を見つめ直し、各年代に応じてキャリア教育の視点で検討していきます。
- 貢献を受けるばかりでなく、本校の児童生徒ができる形での社会貢献活動に取組み、地域の皆さんから賞賛を受けるような取組みを検討します。また、寄宿舎における地域活動のあり方についても検討を深めます。

5 自由記述の中から(傾向と特徴的なこと)

教職員からは、・暗黙のルールの多さ、・医ケアの共通理解と改善、・給食の課題、・教材作成等の時間確保、・担任の業務過多(子どもの指導に集中できない)、教育の系統性と一貫性の改善、教職員の連携のあり方等について挙げられています。

保護者からは、・年度途中の担任の交代、・(教員の)専門的知識の不足、・子どもに向き合う人間性や資質、・介助面だけでなく学習面の充実、・地域への貢献を意図した授業づくり、・異物混入の多さへの不安、・学校における事故の保護者との共有、・PTA活動の改善等が挙げられています。

*学校からのコメントについては、別紙に記載しております。

6 事業所等外部の方から

○事業所等外部からは、送迎等で訪れる事業所の方、校内で仕事をしているボイラーや清掃の方等をお願いをしました。

- ・学校への印象やどのように思っているのかを把握したく実施しました。
- ・教職員の応対、子どもとの接し方、授業の様子など、概ね高い評価をいただきました。
- ・反面、事業所との連携については「2」の評価が2名、相談のしやすさでは1名おりました。学校として、真摯に受け止める必要があります。
- ・悪いと思う点では、防犯レベルの低さ、車の誘導の合図が分かりにくいときがある、玄関にいる教員が誰がどの学年かなど分かりにくい等の指摘がありました。
- ・本校HPのAT機器の紹介について、スイッチ類の自作につながるヒントを掲載するなどしてくれるとありがたいという要望もありました。
- ・ほかにも、スイッチ作成のワークショップの開催や、行事等の案内送付(他校からは届いているが...)というご意見がありました。

次年度に向けて

- ・基本的な社会人としてのマナーである、あいさつや接しやすさ、相談等をし合える連携の強まりなどが課題です。また、学校の資源を有効に活用していただく手立ても、検討していきます。

*詳しくは、事業所等外部アンケートをご覧ください。

7 アンケート～学校教育目標関連～より

現在の学校教育目標「社会の中で、明るく前向きに生きる人を育てる」

- ・自ら進んで学ぶ人
- ・人とのかわり合いを大切にする人
- ・希望にあふれ、生き生きと活動する人

保護者		教職員	
人との関わり	68 %	1 位	人との関わり 70 %
健康と体力	34 %	2 位	意思の伝達 38 %
意思の伝達	28 %	3 位	人への優しさ 29 %

- ・両者同じような傾向ですが、保護者の健康への思いは強く、教育者としての教員との捉えに若干の差異があります。
- ・自ら進んで学ぶこと「保護者 15 %、教員 5 %」、周囲からの支援「保護者 20 %、教員 13 %」、外出や娯楽「保護者 14 %、教員 6 %」、仕事で賃金を得る「保護者 10 %、教員 3 %」が、比較的大きめの差異があった項目。

<今後の方向性>

- 現在の学校教育目標を点検し、これからの時代にあった学校のあり方を検討します。
- ・今回のアンケートで把握した「将来の豊かな生活のために学校教育で大切にしたいこと」

において、『人との関わり』が圧倒的多数を占めたこと、『意思の伝達』と合わせてコミュニケーション力を重点と考える方が多くいました。

- ・ほかに、『健康と体力』『人への優しさ』など健康面・情緒面を大切に考える方、余暇や地域との関係性など社会参加を大切にしている回答もありました。

■これらの結果を、単に数の多少のみではなく、これからの時代背景や学校教育として実践することの適切さなど、いくつかの論点をふまえながら、検討作業を進めます。

＊詳細は別紙をご覧ください。

8 今年度の課題と次年度に向けて～再掲～ 学校評議員会の評議も含めて

(1) 教職員が丸となるために

評 価		
4:達成できた 3:まあまあ達成 2:やや達成できず 1:全く達成できず	3	・取組みに対する直接的な設問としなかったため、評価結果が読み取りにくい面がありました。 ・教職員評価に比べ、保護者評価の方が総じて高いポイントとなっています。教職員は、より自信を持って日々の指導に当たることができるよう、自身の指導力の向上並びに若手教員育成への視点をより持つべきだと捉えています。 ・教育目標については、別途述べます。

<課題解決の方向性>

- 担任等が、児童生徒の指導・授業にしっかり向き合える環境を整えていきます。具体的には、子どもの指導の充実のための分掌業務の再編を行います。
- 初任者研修のあり方を見直し、若手教職員の育成を図ります。
- 会議等の効率化を進め、子どもや授業の話ができる時間を確保します。
- 小中高の系統性を図るため、異なる学部間の授業や指導場面の交流を図ります。
- 教職員の協働性を図るため、自由に学校課題を話し合う場を設定します。

<学校評議員会の評議より>

- ・先生方の忙しさは分かっているので、授業や子どもに向き合う時間の確保は可能なのか。
- ・学校を一部休みにして研修を行うことについては、利用する側の考え方のある。なかなか実現できない現状もあると思うが、意義は大きいと思う。
- ・井戸端ミーティングなど大変よい企画。参加者がより多くなり、先生方の交流が生まれるとよい。（＊井戸端ミーティングとは、各教職員の興味関心に基づいて小グループで活動をした取り組み。）

(2) 保護者が安心するために

評 価		
4:達成できた 3:まあまあ達成 2:やや達成できず 1:全く達成できず	2	・保護者に比べ、教職員の自己評価の低さは、(1)の重点と同様、自身の指導力の向上に課題があると捉えます。 ・例えば保護者との話し合いの『4』の評価が教職員では22名/130名中、保護者が36名/92名中でした。同じ話し合いをしても『4』と捉えるか捉えないかの意識の違いは大きいです。教職員は、現状に満足せず、子どもの成長のために、より深い連携を求めている、保護者にも、もっと連携を深めることで子どもにプラスになることを訴えたいという意味を持っているという分析をしました。

<課題解決の方向性>

- 個別の教育支援計画の活用を充実させることにより、教育のねらいがより明確になります。教職員の理解の深め、有効なツールとして活用できるよう取組みます。
- 各部の特色を活かしながら、個のニーズに応えた教育を実践すべく、授業づくりや公開授業、外部の講師を招いての研修等を実施し、指導力の向上を図ります。
- 摂食については、専門的知識に立った助言を受けることにより、より安全となるよう取組みます。異物混入等の事故については、厨房内の動線の確認等を行い、管理の徹底を図ります。
- 校内の事故等に関しては、『事故調査チーム(仮)』をケースごとに組織し、再発防止策を学校全体で考えていきます。
- 小学部から高等部まで、幅広い年代の児童生徒が在籍していることを意識し、人権と人格を尊重したかかわり方、社会へ巣立った後も通用するかかわり方に留意します。

<学校評議員会の評議より>

- ・人権尊重について、生活年齢にあった適切な児童生徒との関わりが必要。例えば、高校生

を「ちゃん付け」で呼んだり、ニックネームや呼び捨てにすることは、人権感覚を疑われかねない。

- ・給食の異物混入の事故が多い。ケアレスミスであればよいが、連続しているのでしっかりとした防止策が必要である。学校としての「3」の評価は甘いと思う。

(3) 地域・関係者から頼りにされるために

評 価		
4:達成できた 3:まあまあ達成 2:やや達成できず 1:全く達成できず	2	・より具体的に聞き取れるような、設問の工夫が必要です。 ・ホームページや射雲等での情報公開はしていますが、記事の内容、更新の時期の遅れなどに課題がありました。 ・教職員評価から、「社会資源の活用や地域への貢献」に対しキャリア教育の視点からも重要かつ有効な学習活動であるという意識が弱かったと言えます。教育課程上の位置づけをはっきりさせることで、新たな取り組みへの発展を検討します。

<課題解決の方向性>

- ホームページや射雲の記事の内容を充実します。取り組みの報告だけではなく、児童生徒にどのような効果があったのか、地域に対して何を発信した(したい)のか等を、整理して伝えるようにします。
- 将来の社会生活、地域生活を見据え、体験的で実践的な学習に取り組みます。また、従来の活動(学習)の意味を見つめ直し、各年代に応じてキャリア教育の視点で検討していきます。
- 貢献を受けるばかりでなく、本校の児童生徒ができる形での社会貢献活動に取り組み、地域の皆さんから感謝をされるような取り組みを検討します。また、寄宿舎における地域活動のあり方についても検討を深めます。

<学校評議員会の評議より>

- ・地域への貢献について、特別支援学校に求められるものは変化している。地域の学校等とどのようにかわっていくべきか、そのビジョンを明確に示すことで、教職員の果たそうとする役割も自覚できるのではないかと。
- ・肢体不自由教育のスペシャリストは、情緒障害や聴覚障害等の他分野についても力を発揮できるはず。それだけ広い分野にわたって知識が必要なのが肢体不自由教育。教職員の力量を向上させることで、地域の学校にもっと貢献できるはず。

<学校評議員会の評議より全体にかかわって>

- ・各部等の「売り」に対し、評価できない人が多かったのは何故か。本来は「売り」など示さなくても、いつでも頑張って業務をしているはず。「売り」に具体性がなく評価ができなかったのか、具体的だったのに評価をしなかったのか、考える必要がある。次年度に向けては、各部等の自主的な「売り」ばかりでなく、校長からのミッションとして各部等に役割を与えるように考えている。
- ・設問が具体的でない項目があり、評価できない「？」の多さに表れているのでは。平易な言葉を使い、例示を入れるなど具体的な設問をしていくとよい。学校の何を改善したくて、アンケートでお聞きするのかを示していきたい。
- ・教職員については、アンケートの項目ごとに記述欄を設けて、それぞれのポイントをつけた意味を記入するようにするとよいのではないかと。「？」の意図も分かるかもしれない。

9 今年度の学校経営の達成について

上記の分析により、おおむね計画どおり達成されていると考えます。ただし、具体的な課題を多く含んでおり、次年度に向けて改善への動きを活発化させなければなりません。

学校教育目標について

今年度の学校経営は、学校教育目標の達成に向けて取り組んできましたが、地域への発信、地域の中での教育活動の取組みという点では、大きな課題が見られました。

人との関わり、意思の伝達、健康と体力、優しさや思いやり、地域における活動、地域にとっての存在感、余暇、社会活動等々の視点をふまえながら、より未来を見つめ、現実をしっかりふまえた学校教育のあり方を探っていく必要があります。目指す学校の姿を現す学校教育目標の改訂も論議していきます。

回答率 100%

【評価尺度 4:そのとおり 3:ほぼそのとおり 2:やや違う 1:まったく違う】

	評価項目	4	3	2	1	?	ポイント	保護者
教職員が丸・教育	1 目指す姿の理解	16	91	14	1	8	3.0	3.6
	2 教育の系統性	7	42	49	1	30	2.6	2.8
	3 子ども理解や方針の共有	16	70	36	3	12	2.8	3.4
	4 指導力及び技能向上	19	75	24	1	8	2.9	3.5
	5 自立活動適切な指導	34	60	11	0	16	3.2	3.3
	6 儀式的行事の適切な実施	44	69	4	0	9	3.3	3.6
	7 子どもに合った学校行事の実施	21	71	19	0	17	3.0	3.3
	8 『わかる授業』	11	71	17	0	25	2.9	3.2
保護者が安心するため	9 保護者と学校の話し合い	22	65	23	0	18	3.0	3.3
	10 学習の成果や課題等の情報提供	24	75	8	2	17	3.1	3.4
	11 進路指導に関する情報の提供	16	68	16	0	28	3.0	3.1
	12 支援計画を活用した関係者の役割分担	24	61	17	3	23	3.0	3.1
	13 校内での連携による適切な健康管理	23	83	14	1	7	3.1	3.6
	14 安心で安全な教育の場	26	81	10	1	11	3.1	3.6
	15 * 給食の安全	24	72	24	1	7	3.0	3.5
	16 本校は通わせたいと思える学校である	27	72	7	0	22	3.2	3.3
地域関係者から	17 保護者と教職員の適切な交流	22	66	24	0	15	3.0	3.3
	18 児童生徒の人権を尊重	42	70	9	0	8	3.3	3.6
	19 学校の取組や教育の実績についての発信	33	78	10	1	5	3.2	3.7
	20 地域資源を活用した授業	5	54	26	4	37	2.7	2.8
	21 地域からの理解	7	55	20	3	42	2.8	2.7
	22 地域に対しての貢献	6	43	27	4	48	2.6	2.5
以下、教職員のみ								
その他	① 適切な事務的处理	30	75	16	1	3	3.1	
	② 校舎内外の美化や物品の丁寧な扱い	13	63	35	3	11	2.8	
	③ 教職員間の人間関係	22	57	29	3	12	2.9	
	④ 働きやすい職場環境	17	55	37	6	10	2.7	
設問14の給食の安全で、「1・2」をつけられた方へ、不安な点はどこでしょうか？ (22)食の形態が不安 (14)給食の食べさせ方が不安 (4)その他が不安 ・調理法など、保護者支援も必要だと感じている。 ・異物混入が多く、生徒にも不安感を持たれている。 ・生徒の実態に合っていないのに、保護者から望まれた形態で食しているのが大変不安。 ・具材が大きかったり、かたかったりする ・ごはん、うどんの固まり具合が特に心配です。 ・今年度皆川に指導いただくまでは、ただの栄養摂取になっていたと感じています。								

平成28年度学校評価(保護者評価)表

回答率 92枚(72%)

【評価尺度 4:そのとおり 3:ほぼそのとおり 2:やや違う 1:まったく違う】

	評価項目	4	3	2	1	?	ポイント	教職員
教職員が 一丸・教育	1 目指す姿の理解	12	54	1	0	19	3.2	3.0
	2 教育の系統性	23	37	6	2	20	3.2	2.6
	3 子ども理解や方針の共有	30	37	10	0	19	3.3	2.8
	4 指導力及び技能向上	39	37	4	0	8	3.4	2.9
	5 自立活動適切な指導	38	34	7	1	9	3.4	3.2
	6 儀式的行事の適切な実施	57	29	1	0	0	3.6	3.3
	7 子どもに合った学校行事の実施	37	43	4	0	4	3.4	3.0
	8 『わかる授業』	40	38	3	0	6	3.5	2.9
保護者が 安心する ために	9 保護者と学校の話し合い	36	41	3	0	5	3.4	3.0
	10 学習の成果や課題等の情報提供	45	37	4	0	2	3.5	3.1
	11 進路指導に関する情報の提供	33	40	7	0	8	3.3	3.0
	12 支援計画を活用した関係者の役割分担	41	34	4	0	7	3.5	3.0
	13 校内での連携による適切な健康管理	41	34	4	0	10	3.5	3.1
	14 安心で安全な教育の場	43	38	4	0	3	3.5	3.1
	15 * 給食の安全	47	24	5	0	11	3.6	3.0
	16 本校は通わせたいと思える学校である	55	25	2	0	4	3.6	3.2
地域関係者 から	17 保護者と教職員の適切な交流	32	34	3	0	14	3.4	3.0
	18 児童生徒の人権を尊重	45	34	3	0	5	3.5	3.3
	19 学校の取組や教育の実績についての発信	33	43	3	0	5	3.4	3.2
	20 地域資源を活用した授業	17	32	5	0	33	3.2	2.7
	21 地域からの理解	13	28	2	1	41	3.2	2.8
	22 地域に対しての貢献	17	24	1	0	43	3.4	2.6

設問14の給食の安全で、「1・2」をつけられた方へ、不安な点はどこでしょうか？

(3) 食の形態が不安 (1) 給食の食べさせ方が不安 (1) その他が不安

・給食室から提供される段階で、例えば「やわらか食」「きざみ食」「ミキサー食」など分けて、先生の二次調理時間を短縮できるようになれば良いと思います。

・異物の混入が目立った。自分で食べている生徒が気付かずに食べてしまわないか心配しました。

平成28年度 学校評価 学校教育目標に関連するアンケート

あなたは、子どもたちが将来にわたって豊かに生きるために、どんなことが大切だと思いますか？大事だと思うこと上位3つ選んで、○印をつけてください。

		教職員130	保護者88	
1	自ら進んで学ぶこと	7(5%)	13(15%)	生きる姿勢
2	人との関わりを大切にすること	91(70%)	60(68%)	生きる姿勢
3	希望にあふれ活き活きと活動すること	16(12%)	17(19%)	生きる姿勢
4	障がいの状態を改善すること	1(1%)	6(7%)	体と健康
5	常に自分の力を発揮できること	8(6%)	5(6%)	体と健康
6	地域や周囲の方々から、多くの指導・支援を受けること	17(13%)	18(20%)	周囲の協力
7	意思をはっきりと伝えること	50(38%)	25(28%)	意思表示
8	基礎的な学力を身につけること	10(8%)	6(7%)	学力向上
9	地域活動に積極的に参加できること	5(4%)	4(5%)	社会参加
10	社会に貢献できること	2(2%)	3(3%)	社会参加
11	健康で十分な体力があること	32(25%)	30(34%)	体と健康
12	人への優しさや思いやりがあること	38(29%)	24(27%)	人間性
13	豊かな感性があること、感性を磨くこと	11(8%)	4(5%)	人間性
14	休日などに楽しめる余暇を持つこと	23(18%)	10(11%)	余暇の活用
15	制度やボランティア等の社会資源を活用すること	12(9%)	13(15%)	制度の活用
16	自由に外出や娯楽を楽しむこと	8(6%)	12(14%)	社会参加
17	作業や仕事をして、賃金をもらうこと	4(3%)	9(10%)	労働

その他(選択した3つ以外(4つ目)でもかまいません。)

【教職員】

・どうやって生きていくのか、どうやって生活するのか、学ぶことが必要と思います。

【保護者】

・ストレスを回避すること
 ・あいさつできること
 ・おいしくご飯を食べられること
 ・ネットで栗田直樹さんの動画を見ていただきたいです。
 ・他者に必要とされている存在と感じられること。

学校評価 各部等への取組に対するアンケート

※各部等から出された『今年度力を入れて取り組むこと(今年度の売り)』です。1学期に集約し、提示したものを、各部分掌等ごとに並べ替え、各先生方の評価をまとめています。各部等で、今年度力を入れた取組への教職員の意識アンケートのように捉えてください。年末反省に生かされると幸いです。

対象の部等	項目	4	3	2	1	?	
小	・入学の不安を取り除き、楽しく教育活動ができています。	25	43	2	0	55	3.3
	・見通しを持たせるなどにより主体的な活動を伸ばし、生活の力を育てている。	12	54	4	0	55	3.1
中	・生徒一人一人の個性や特性を把握し、適切に学習グループを編成することで教育効果を上げている	11	42	10	0	58	3.0
	・日課は生徒一人一人に合ったものになるよう工夫され、成果(子どもの成長)が感じられる	9	48	10	1	57	3.0
高	・これまで身につけた力を発揮できるように、体験的な学習が適切に行われている。	13	54	2	1	51	3.1
	・運動会でのおやじの会の応援販売への取組は、成果があった。	19	46	1	0	53	3.3
	・生活体験実習は、進路先の決定に有効に機能した	20	35	2	0	63	3.3
	・生徒の指導について、担任を中心に普段から話せる雰囲気作りができた。	14	34	14	1	59	3.0
	・生徒や職員が、けがなく元気に過ごした。	11	44	21	1	45	2.8
訪	・人との関わりを大切にした教育活動の充実(訪問学級内、所属学級、ブロック、学年等)が適切に行われた	20	36	2	0	54	3.3
教務	・各学部の教育課程について理解し、適切な個別の指導計画を作成することができている。	12	67	12	0	33	3.0
	・個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と評価の手順がわかりやすく、年間スケジュールが適切であった。(家庭訪問、個別懇談も含む)	16	62	15	1	30	3.0
総務	・曖昧なところ、改善を必要としているところについて、『見つけよう、改善しよう』とした。	8	44	15	3	54	2.8
庶務	・学校記録等にかかわる各部門・分掌との連携がとれた。	9	41	10	1	61	3.0
	・特別教室の教材整理ができた。	8	40	18	3	51	2.8
生徒指導	・小中高の児童生徒の関わりを持つため、児童生徒会の全行的なつながりを築けたか。 (全校的な行事が少なく、小中高の児童生徒の関わりが少ない。小と中は運動会のテーマを児童生徒会が一緒になって決めている。小中高の児童生徒会合同の活動を持ち、まずは、児童生徒会から全校的なつながりを築いている。具体的には、9月13日の全校集会に向けて話し合いを持つ。)	12	38	27	0	45	2.8
研究	・校内研究や研修を通して、教育課程や「カリキュラム・マネジメント」に対する理解が深まった。	7	54	23	2	37	2.8
	・校内研究や研修が、授業改善や教育課程の見直しにつながっているという実感を教職員はもてた。	8	50	24	4	38	2.7
進路	・【ようこそ先輩、進路について考えようなどの授業づくり】生きがいや夢を持つこと(やりたいこと好きなこと)を掲げた取り組みを行い、自分の役割を意識していけるような取り組みに繋げて行く。	12	46	7	0	57	3.1
	・【情報の提供】自立と社会参加について情報を提供していく。	10	51	13	0	51	3.0

保体	・児童生徒が健康・安全に教育活動を行うための、研修の実施や衛生管理の周知を行った。	23	66	7	1	27	3.1
支援 相談	・交流および共同学習(地域学習・学校間交流)が計画的に実施され、かつ充実している	16	69	8	0	31	3.1
視聴 覚	・重点目標の達成。・特に、3の作品展へ出品呼びかけについては、積極的に行い内外への発信に努めた。	15	57	8	0	45	3.1
	・視聴覚機器、教材の整理をし、必要な物が必要な時に使うことができる環境作りに努めた。	7	54	1	1	49	3.1
情報	・校務支援システムが停止することによる掲示板等のシステム構築と全校への推進	24	56	6	1	33	3.2
	・見たくなるHPの作成と運営体制の構築がなされた。	8	44	18	6	46	2.7
自活	・学校の給食指導充実のために、他分掌や学部、保護者との連携を密に、児童生徒の実態把握及び指導、自立活動相談の活用、研修企画に努めている。	29	58	8	0	31	3.2
寄宿 舎	・振り返りを大切にし、日常の指導の充実に努めた。	17	49	3	0	52	3.2
		4	3	2	1	?	

H28年度学校評価 事業所等外部アンケート

全28名

【評価尺度 4:そのとおり 3:ほぼそのとおり 2:やや違う 1:まったく違う ? :分からない】
該当の部分に○印をつけてください。

	設問	4	3	2	1	?	
1	本校職員の挨拶や対応は、社会人として適切である。	18	9	0	0	0	3.7
2	本校は、事業所等との連携は適切にとっている。	14	7	2	0	5	3.5
3	本校の教育活動について、よく知っている。	7	7	0	0	14	3.5
4	本校は、相談や子どもの話など、しやすい学校である。	10	10	1	0	7	3.4
5	本校は、何かあったときには、頼りになる学校である(と思う)。	10	9	0	0	9	3.5
6	本校職員は、子どもに対して人権に配慮した対応をしている。	15	8	0	0	4	3.7

無回答の項目もあります。

本校の良い点と思うところと、悪い点と思うところを挙げてください。

(思いつくままに、遠慮せず気軽に記入してください。いくつでも。)

良いと思う点

- ・お迎えに行くと、毎回先生と一緒に車まで出てきてくれて、様子を伝えてくれる。
- ・車の誘導や質問に対して、適切な対応をしてくださる。
- ・親近感があり表情が明るい。
- ・送迎車の誘導が的確で分かりやすい。
- ・学校が一つのチームと感じられる。
- ・引き継ぎの時間を十分とってもらえる。
- ・学校を見学に行ける機会が多い。
- ・登下校時の車の誘導に際しては、細かく心配りされてて、私どもとしてはありがたく思います。
- ・雰囲気はとてもよいと思います。
- ・先生たちがとても明るく、楽しげに接してくれるところ。
- ・皆さんいつも明るく笑顔で大きな声で挨拶してくれますし、生徒さんにも常にやる気を起こさせる話方で接し、とてもよいと思います。
- ・挨拶が活発、表情明るい、話やすい。
- ・学校関係者の方が、皆さん挨拶をする。
- ・障害児を自分の子のように扱い、あたたかい言葉がけで接していただき、親よりも目配り心配りを心がけて、人間としての尊厳に心配りに大変感謝しております。
- ・子供の能力を伸ばす素晴らしい教育を実践されていると思う。
- ・送迎時、駐車場で車の誘導をしてくれる。
- ・学校での様子を細かく教えてくれる。
- ・送迎車まで来てくれて、乗車の手伝いをしてくれる。
- ・学校へのお迎え際に、先生方が案内・誘導をいただいていることで、安全に送迎ができ、とても感謝しております。
- ・行事が多い、スタッフが多い。
- ・時間をかけながらも自立支援を行っていること。変えるときの準備が早い。
- ・先生方が熱心に子供に対応していると思います。

悪いと思う点	・給食時、職員もうまく食事を摂れるように連携できると思います。 ・車の誘導時、親切にいただいているが、合図が時々わかりにくいときがある。 ・防犯レベルが低いかな？ ・各地区の自宅の近隣に養護学校があれば、親や家族の負担も少なくなります。教育行政の改善、配慮を望みます。 ・玄関まで行くが、なかなか気づいてもらえないことがある。 ・担任の先生がどなたかわかりづらい。皆で並んでいるので、学年ごとに分けるとか・・・。 ・車の誘導の仕方、たまに周りの状況判断が悪く、怖いと思うことがあります。 ・挨拶が不十分な先生がおられます。元気に挨拶しましょう。 ・悪いというか、建物が古いので新しくなるとよいですね。
---------------	--

何かあれば、自由にご記入ください。

- ・スクールバスの担当の方が、曜日によって違うので、聞いたことに対して違う回答になることがある。
- ・いつも情報交換を挨拶しながら行っているが、今後も是非濃い情報交換になるようお願いします。
- ・以下は学校の先生方にご負担をかけることなので、あくまで「夢」として・・・
- **子どもが学校で使っている教材教具の作り方、使い方に関するワークショップ的なことを開催していたけると嬉しい。
- **学校ホームページの「AT機器の紹介」は興味深い。年に1回くらい内容をアップデートして、加えてスイッチ類の自作のヒントなども載せていただけると嬉しい。
- ・障害児童を親以上に学習・生活指導を教育していただき、大変ご苦労なさっていることと思いますが、今後とも障害児童の人間形成や社会復帰のために、より一層のご指導、ご配慮を賜りますこと、心からお願い申し上げます。
- ・他の学校からは、関係機関に行事のお知らせや招待状が来ているが、貴校からは来たことがないので、保護者から聞いて知ることが多い。
- ・車の誘導をしているスタッフが、時々危ないところにいる。

ご協力、ありがとうございました。
締切りは、10月 日とします。

保護者評価 自由記述への学校からのコメント

	記述していただいた事項の要約	学校からのコメント
指導体制について		
1	休暇・休職の職員の扱い、年度途中の担任交代	・年度途中の教職員の病気などは予想できませんが、子どもたちの教育活動にできるだけ支障が出ないよう、学年・学部、時には全校単位で応援態勢を組んでいきます。
2	同性介助など、安心な指導体制	・職員の男女比により、十分な指導体制とならない場合もありますが、同性介助や安全に留意した介助については、年代などを考慮しながら体制を組んでいます。必ずしも担任がトイレ介助などをできない場合もありますが、ご理解願えればと思います。
教職員の専門性・資質		
3	肢体不自由児に対する基本的事項の研修	・始業式前の研修の中で、基本事項の研修を充実します。
4	専門知識の保護者との共有	・教職員の研修会参加や自己研鑽を奨励し、得た知識や情報を保護者とも共有できるよう進めていきます。
5	子どもの課題や生き方に真摯に向かう姿勢と人間性	・多様な生き方を尊重し、卒後の生活を見据えながら子どもや家庭と寄り添っていける教師像を目指します。
教育内容について		
6	指導力の向上	・教員の授業研究会などを開催し、授業力向上を目指します。
7	卒後を意識した行事や学習のあり方	・小中高の年代に合わせた、行事や学習のあり方について検討していきます。学校教育最後の場である高等部については、再検討が必要と考えています。
8	地域への貢献や活用を意図した学習	・年代に応じた活動となりますが、地域を巻き込んだ学習、地域に感謝される活動などを検討したいと思います。
9	パソコンやタブレットの活用	・有効なツールとして積極的な活用を推進していきます。
10	訪問学級と在校の交流、情報交換	・在校と訪問と連携し、お互いが仲間意識を持ち合えるような交流の工夫をしていきます。
引継ぎについて		
11	それまでの教育の成果や課題の蓄積を	・引継ぎは、基本的事項で、指導の実施に向け前担当者からの引継ぎの一つとして、本校では前年度のうちに仮の目標案を作成し、空白期間をなくすようにしています。引継ぎとして重要な事項は、保護者からも3月までの担任にお伝えいただければと思います。
給食、医ケア、健康について		
12	異物混入の多さ	・その都度原因を究明し、再発防止に努めてきましたが、混入が続きましたことを深くお詫びいたします。2月に、異物混入に係る緊急会議を開催し、栄養教諭及び調理員と再発防止の確認と安全意識の徹底について、議論しました。
13	医療的ケアの基本・原則	・医師のいない学校では、看護師であっても実施出来る行為には多くの制約があります。緊急時には救急搬送等を想定していますが、緊急の場合には特例として看護師に『認められていない行為(緊急措置)』を校長の責任で実施することもあります。あくまでも、緊急を要する場合の臨時的措置で、本来的に認められていない行為となる場合があります。
14	事故の保護者との共有	・年度末になりましたが一覧でお知らせしました。事故については、保護者と共有することで、危機意識を共通に持ち、緊張感を持って事故防止に努めていきたいと考えます。

その他について		
15	PTA活動の見直し	・PTA活動のあり方については、多くの考えやご意見があるかと思います。PTAは会員相互の意見交換で活動を決定することができますので、疑問点についてはPTA事務局までお知らせください。必要に応じ、役員会等で検討する準備を整えたいと思います。
16	余暇活動への教員の関心・支援	・本校児童生徒にとって、余暇活動の充実はとても大切なことと理解しています。今後も、直接的あるいは間接的にも協力・支援していきたいと考えています。
17	学校の開放	・休日等の開放は、その組織に本校の児童生徒及び本校職員が加入しており、その職員が管理責任を担える場合に、開放は可能です。長期休業中などは、学校にご相談ください。平日の日中であれば、可能な日もあるかと思えます。
18	旅行行事の写真販売	・個人情報保護がうたわれる中、顔や名前が写り込んでいる写真の配布(特にデータでの配布)には、画像やデータが悪用されるケースもあるなど、特段の注意が必要です。また、旅行行事では写真屋さんの同行もしていないので、引率教員による「記録用の写真」程度しか写せない現状もあります。写真販売についてを含め、整理していきたいと考えています。
19	見やすいホームページ	・1月にリニューアルしました。情報の適切な更新に努めていきます。

教職員評価(自由記述)から得られたポイントのまとめ

1	校内人事の適切な実施	・学校として担ってもらいたい役割と、個々人が担いたい役割に時として相違が出る場合もありますが、学校をよくするためという大局的な立場で校内人事を進めます。
2	暗黙の了解、ルールの改善	・先生方からアンケートを取りました。暗黙の了解とは言えない要望なども含め、グループウェアにアップしたので、各先生方で答えや考えなどを書き込んで、完成させましょう！『真養ウィキペディア』方式です。
3	医ケアの改善	・医ケアの動きを、組織的にしようと考えています。詳細は検討中ですが、誰に聞けばよいか？という悩みには応じたいと思います。
4	給食の改善	・段階食の導入など、抜本的な解決策はとれないのが現状です。食の形態の工夫やメニューの工夫など、取組める部分で取組みたいと思います。
5	入舎の原則についての確定、周知	・教育的機能の活用に関する入舎についての要領も整備され、『遠隔地・事情・教育的』な入舎についての問い合わせに、各担任が対応できるよう周知します。
6	若手教職員の育成	・初任者研修のあり方等を見直し、育成に努める。同時に、若手を育成する意味でも、中堅からベテランの先生方の指導力・資質向上も不可欠です。
7	教材作成等の時間の確保	・職員会議は、引き続き基本的に隔月の開催とする。ほかの諸会議についても、各部署ごとで合理化を図ってみてください。
8	担任等、業務過多について	・分掌業務の改変を提案し、担任が子どもの指導により集中できる環境作りを図った。この意図は引き継がれ、校内の仕事のシェアという観点からも、 <u>実現に向けた条件整備の議論をしていきたい。</u>
9	教育相談の充実	・子どもの実態や教育課程の適切さなど、客観的に判断できる資料などの活用を検討します。
10	教職員が連携できる環境	・学校課題に即した「井戸端ミーティング」等を開催し、学校経営に全員が参画できる環境を設定します。(学校課題解決のための連携を)
11	学部間の情報共有	・校内における人事交流も積極的に行うとともに、各部の課題を学校の課題として共有できるよう、情報の公開を進めて行きます。

12	保護者対応のあり方について	・保護者対応は大きな課題です。接し方のマニュアルはありませんが、困ったときには、学年主任・ブロック長、部主事等と相談し、身近な集団で解決出来る体制を整えてください。学年が基本です。
13	教育の系統性と一貫性	・小中高それぞれの年代で目指すべき教育の方向が定まり切れていません。地域資源や実際の『社会』の活用も図りながら、進めて行きます。
14	行事の精選	・具体的に精選すべき行事は何でしょうか？教育課程の観点を忘れずに、論議するとよいでしょう。まずは、関係分掌等への提案がなければ進まないと思います。
15	学校の課題の明確化と各部の役割	・各部の一貫性と重複しますが、果たすべき役割を各部で明確に押さえることが必要です。